

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第42号 2010年6月15日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24 - 2211

「敵を愛せよ」はありえないか？(その壱)

志村 真 (短期大学部)

そんなのありえんしー

イエスの言葉に「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈れ」(マタイ福音書5:44)があります。「愛敵の教え」と呼ばれている教えです。授業などでこの言葉を紹介すると、高校生から大学生、そして大人までが口々に「そんなのムリ、ムリ」「ありえんしー」と反応します。果たして、これは本当に、ありえん、ムリな教えなのでしょうか？

実際、キリスト教の歴史では、この言葉はもっとも困難なもの、つまり守るのがムリな教えと見なされてきたものです。ムリだと思えば、後は言い訳を考えるしかありません。そこでこの言葉は色々な方法で薄められたり、かわされたりしてきました。たとえば、これは聖職者だけに語りかけられた教えで、一般の信者は守らなくていい、とか。「敵を愛せよ」とあるが、イエスの他の教えと比べると「自分を愛するようにあなたの敵を愛せよ」とまでは命じられていないから、敵を憎まないことで十分である、とか。この教えは一人の個人としての人間関係においては守られなければならないが、民族対立や国家間の戦争といった社会集団の問題については適用しなくてもよい、とかです。

がちんこで受け止めた人たち

ところが、この「愛敵の教え」をがちんこで受け止め、しかも誰もが理解できる言葉で言い換え、実践しようとした人々があります。そこで、その中から4人を取り上げ、その発言を紹介したいと

思います。マハトマ・ガンジー (1869~1948)、マーティン・ルーサー・キング (1929~1968)、トマス・マートン (1915~1968)、ティク・ナット・ハン (1926~) です。

マハトマ・ガンジー

インド独立の父ガンジーは、インドを植民地として支配しているイギリスの背後にあるキリスト教会を批判しましたが、イエスの教え、特にその「山上の教え」に深く学び、彼の非暴力思想と直接行動に着想を得ています。そのガンジーが「愛敵の教え」について直接触れている発言を紹介いたしましょう。

「自分を愛する人のみを愛するのであれば、それは非暴力ではない。自分を憎む人を愛する時に初めて非暴力となる。」(K.クリパラーイー編『抵抗するな・屈服するな ガンジー語録』古賀勝郎訳、朝日新聞社、1970年、138ページ)

キング牧師

1955年12月、アフリカ南部のある町で人種差別事件が発生しました。キング牧師はその事件に抗議し、抵抗運動を指導し、それ以来、アメリカの人種差別撤廃運動を担いました。後にはベトナム反戦運動を開始、間もなくして暗殺者が放った凶弾に倒れました。1968年4月4日のことでした。

このキング牧師の有名な説教に「あなたの敵を愛せよ」があります。1957年11月17日に語られた説教です。その中から少し引用いたしましょう。「ある個人が彼の敵を愛そうとする時にしなけれ

ばならない・・・事柄は、彼の敵の中に善の要素を見出すことであり、その人を憎み始めたり、憎もうと考えたりする時にはいつでも、その人の中にも何らかの善があるのだから、悪しき点とバランスを欠いているその善い点をじっと見つめるようにしなければならない・・・。」「あなたがたを最も憎んでいる人種の中にも、何かの善がある。・・・だから、どうかあなたがたの敵の中にこの善の要素を見出してほしい。・・・憎もうとするときには、この善の核心を発見して、それをじっと見つめてほしい。」(『真夜中に戸をたたく キング牧師説教集』梶原寿訳、日本基督教団出版局、78～79ページ)

キング牧師によれば、「敵を愛する」とは言い換えれば、敵と思える個人であれ、集団であれ、その人々の中にも善の要素を見ること、つまり、その人たちも人格を持つ私たちと同じ人間だと認めることなのです。

マートン神父

三人目のマートンは、アメリカのカトリック教会の司祭(トラピスト会)で、多くの書物を著した方です。「祈りと労働」の修道生活をしながらも、ベトナム戦争当時のアメリカにあっては圧倒的に少数派であった「非暴力主義」に立って、戦争に反対し、核兵器の廃絶、愛と平和を説き、それゆえに「アメリカの良心」と呼ばれました。ダライ・ラマや鈴木大拙などの仏教指導者とも交流された方です。以下、彼の発言を引用しますが、ベトナム戦争最中の発言であることに注目してください。

「敵も私たちと同様人間であって、動物や悪魔ではないことを忘れてはならない。」(木鎌安雄『評伝トマス・マートン』ドン・ボスコ社、217ページ)「わたしたちは、敵対者から『何かを学ぼう』としているか。『新しい真理』が敵対者から知らされたら、それを認めるか。敵対者が完全に非人間的ではない、悪くはない、不合理ではない、残酷ではないなどと、喜んで認めることができるか。」(『平和への情熱 トマス・マートンの平和論』木鎌安雄訳、女子パウロ会、128ページ)

マートン神父によれば、「敵を愛する」とは言

い換えれば、敵と思える人々も私たちと同じ人間であって、敵を「動物や悪魔」と見なす「敵視の心理」から抜け出して、やがては遂に「敵から学ぶ」用意すら自らに課すことなのです。

ナット・ハン師

最後に紹介するナット・ハンは、ベトナム出身の禅僧・平和運動家です。ベトナム戦争中は、非暴力に徹した社会活動、すなわち爆撃された村の再建や学校や病院の建設、離散家族の再会プログラムなどを行ない、「社会参画仏教」を提唱しました。1966年に渡米してベトナム戦争の終結を訴え、キング牧師に面会して反戦運動に参加するよう促しました。

ナット・ハン師はこう言っています。「イエスは言われました。『あなたの敵を愛し、あなたをののしる者を祝福せよ、・・・』と。自分の怒りを深く見つめてみるならば、私たちは、自分が敵と呼んでいるその人もまた苦しんでいるのだ、ということがわかります。そのことがわかるようになれば、直ちに私たちはその人を受け入れ、その人に同情心を抱くことができるようになるのです。そのことをイエスは、『あなたの敵を愛する』と言ったのです。私たちが自分の敵を愛することができた時には、その相手はもはや敵ではないのです。『敵』という考えは消え失せ、他者への限りない同情心という考えに取り代わります。」(『ラブ・イン・アクション 非暴力による社会変革』滝和久訳、溪声社、14ページ)

ナット・ハン師によれば、「敵を愛する」とは言い換えれば、敵と思える人々も私たちと同じく苦しむ人間であって、その「敵の苦しみ」が理解できれば、私たちは敵を受け入れ、同情心を抱くことができる。そのことよって、「敵」はもはや敵ではなくなり、共に苦しむ人生の同行者となるのです。人間の「苦(苦しみ)」を深く洞察する仏教徒らしい、そして極めて妥当な理解だと思えます。彼は仏教僧侶ですが、ガンジーと並んで、イエスの「愛敵の教え」のもっとも深い理解者の一人と言えるでしょう。(つづく)

チャペル・トーク

「隠れた報い」

木下 忠司（日本基督教団 坂下教会牧師）

マタイによる福音書 6章 5-6節

「施し」「断食」「祈り」、この三つはどの宗教においても大切な行為です。もっとも「祈り」は、信仰のあるなしにかかわらず誰もがしています。「施し」は、悲しむ人を慰め、苦しむ人を助けることでしょう。「断食」の本質的な意味は、足るを知る生き方を自らに課してゆくとことだと思えます。どれも大切な行為と言えます。

ところが当時のユダヤ教の信者の中で、これらの行為を人前で見せびらかす者たちがいたのです。なぜ彼らはそうするのでしょうか。素直に考えれば、周囲に認められたいということでしょう。「ああ、あの人は立派な人だな」「何と敬虔深いんだ」「たいしたものだ」そのような評価を得たいのです。ところがイエスは、このような人たちは、すでに報いを受けていると言うのです。「報い」という言葉を調べてみました。「ある行為の結果として自分の身にはね返ってくる事柄、善悪いずれにもいう。」 善い意味もあれば悪い意味もあるわけです。

人前でこれらの行為を行う人の目的は、良く思われたいからと述べました。良く思われたらどうなるのでしょうか。優越感に浸ると思います。誰もが同じようにできるわけではありません。当然のことながら、差が生じます。よくできる者は、更なる優越感に浸れます。そうでない者は劣等感にさいなまれます。優越感に浸れる者たちは、同じようにできない者たちを見下すでしょう。つまり人の目を意識してやることで、優れた者とそうでない者とを分け隔てる差別意識が生まれることになると思うのです。

そもそもこれらの行為は、誰かと比較して競うことが目的ではありません。しかし人の目を意識することで、これらの行為が競争となり、優越感

に浸る者、劣等感にさいなまれる者、そうした分け隔ての構造を作りだしてしまうのです。イエスは、人前でこれらの行為を行う者は、このような意味で悪い報いを受けていると言いたかったのではないのでしょうか。

では「善い報い」とは何のでしょうか。イエスは言います。「隠れたところにいて、隠れたことを見ておられる神が報いてくださる。」 ということなのでしょう。藤木正三という牧師が、次のようなことを述べられています。「神は隠れたところにされると言います。隠れたところとはどこでしょうか。人の目から隠れた心の中のことでしょうか。しかし、そこも人の目から隠れているだけで、自分の目からは隠れていません。では、自分の目からも隠れたところはどこでしょうか。それは、人はどこから来てどこへ行くのかという存在の不思議さです。これは、誰の目にも隠れています。」

藤木先生の言われるように、わたしたちがこうして存在すること。これは不思議なことです。確かに誰の目にも隠されたことと言えらると思います。そして「隠された」とは、見えないとかわからないというだけではなくて、「気がつかない」「思いもよらない」という意味もあるのではないかと思ったのです。

もう10年くらい前、北九州の筑豊へ研修に行きました。そこで福吉伝道所という小さな教会で働かれている犬養光博牧師と出会いました。犬養先生は、同志社大学神学部学生の頃から、筑豊の福吉炭鉱という零細な炭鉱と関わりを持ってきました。日本の各地の炭鉱は、1960年代、主要エネルギーが石炭から石油に変わる中で、経営が悪化し、どんどん閉山に追い込まれてゆきました。炭

桐が谷通信

鉱労働者たちは次々と失業し、その家族は貧しさの極みに突き落とされていったのです。犬養先生は仲間の神学生らと共に「筑豊のこどもを守る会」を発足し、筑豊でももっとも貧しい福吉に行ったのでした。

わたしたちは犬養先生から当時の活動の様子をスライドを見ながら聴きました。そのほとんどは忘れてしまったのですが、たった一枚のスライドの写真は今も目に焼き付いています。その写真は、福吉の小学生たちが40～50人でしょうか。記念のために写した写真でした。

犬養先生によると、福吉での活動期間中、一回だけ給食をしたそうです。給食と言っても近くのパン屋さんをお願いして作ってもらったコッペパンだけだったそうです。こどもたちのほとんどは、一日一食しか食べられないこどもだったそうです。ですから犬養先生たちは、喜んで食べてくれるだろうと思ったそうです。

けれども、ほとんどのこどもたちは食べなかったというのです。「どうしたの？」と聞くと、皆恥ずかしそうに「家に帰ってから食べる」ということでした。後でわかったそうですが、家には自分と同じように腹を空かしている家族がいたので。なるほどスライドの写真のこどもたちの手にはコッペパンがありました。皆あふれんばかりの笑顔で写っていました。

この子供たちが、目の前に差し出されたコッペパンを、食べたくて食べたくて仕方がないのをじっと我慢して、持ってきてくれようとは、家で待っている親や兄弟は、予想もしていなかったはずです。こどもたちが家に帰ったとき、兄弟たちは大喜びだったと思います。親たちはわが子の優しさに胸が熱くなったかも知れません。きっと一つのコッペパンを、家族みんなで分け合って、幸せな時を過ごしたと思うのです。

イエスは言います。神は隠れたところにおられると。わたしたちが気づかないこと、思いもよらないこと、そこにいるのだと言うのです。そして、隠れたことを見て報いてくださると言われます。あなたが気づかないところで、あなたが知らないところで、あなたが思いもよらないところで、あなたを思いやり、あなたに助けを差し伸べ、あなたのために耐え忍び、あなたのために力を尽くしている者がいてくれるのだ。苦しくて、悲しくて、あなたは覚えられ、支えられ、助けられている。そうした仲間が必ずいる。そのようにしてあなたは生きていられるのだ。前に進んでいけるのだ。これこそ神の報いなんだ、ということではないでしょうか。わたしたちもまた、思いもよらない誰かに支えられ、気がつかない誰かに助けられ、今こうして生きることができる。わたしたちの目に隠れた「報い」を覚える者でありたいと思います。

2010年5月13日(木) 各務原キャンパスチャペルアワー奨励

【クイズ】

この絵(版画)がキャンパスのどこかに掛けられています。型染版画という手法で、聖書のさまざまなシーンを表現した渡辺禎雄(1913-1996)の作品です。

そこで問題です。

この作品のタイトルは、「〇〇〇の復活」です。

〇〇〇に当てはまる文字を、はがき又はメモ用紙にお名前、ご連絡先をお書き添えの上、関キャンパス総務課までご応募ください。正解者の中から抽選で、宗教委員会より素敵なプレゼントを差し上げます。締切：2010年6月30日(水) 正午



＜2010年度 前期チャペルアワー＞

(詳細は本学ホームページにも掲載されております)

関キャンパス

実施日	チャペル・トーク(スピーチ)	奨励担当者	所属・役職
4月12日	「旧約の預言者ヨナ」	笠井 恵 二	岐阜済美学院宗教総主事
4月15日	「文部省唱歌になった賛美歌」	田口 清 吾	中部学院大学事務局次長
4月19日	「追いつめられた者」	小野 経 男	岐阜済美学院学院長
4月22日	「神を畏れることを知らないが故に亡びる」	志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
4月26日	「時は満ちた」	志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
4月29日	「金持ちとラザロ」	笠井 恵 二	岐阜済美学院宗教総主事
5月6日	「人の子は罪をゆるす権限を」	村上 進	中部学院大学総務部長
5月10日	「荒野に水は湧きて」	西堀 元	中部学院大学総合研究センター事務係長
5月13日	「人はパンだけで生きるのではない」	日高 伴 子	日本キリスト教団蘇原教会牧師
5月17日	「自分の目指すもの」	桐山 潤	中部学院大学学生課課長
5月20日	「ときが良くても悪くても」	志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
5月24日	「1 デナリオンの恵み」	小田部 正 一	日本キリスト教団中濃教会牧師
5月27日	「苦しみの中にある希望」	益田 明	中部学院大学通信教育部事務員
5月31日	「人間にとって祈りとは」	片桐 多恵子	中部学院大学短期大学部学長
6月3日	「石の声に耳を傾ける」	大宮 有 博	名古屋学院大学商学部准教授
6月7日		鴨下 直 樹	同盟福音基督教会芥見キリスト教会牧師
6月10日		西島 麻里子	岐阜済美学院済美高等学校宗教主事
6月14日		宇佐美 敏 雄	中部学院大学通信教育部課長補佐
6月17日		志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
6月21日		菊池 真	中部学院大学通信教育部課長補佐
6月24日		木下 忠 司	日本キリスト教団坂下教会牧師
7月1日		志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
7月5日		梶原 寿	日本キリスト教団牧師
7月8日		加藤 コラゾン	中部学院大学短期大学部准教授
7月12日		志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
7月15日		笠井 恵 二	岐阜済美学院宗教総主事
7月19日		小野 経 男	岐阜済美学院学院長

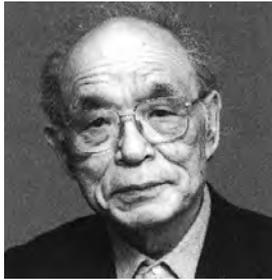
各務原キャンパス

実施日	チャペル・トーク(スピーチ)	奨励担当者	所属・役職
4月15日	「神を畏れることを知らないが故に亡びる」	志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
4月22日	「金持ちとラザロのたとえ話」	笠井 恵 二	岐阜済美学院宗教総主事
4月29日	「たいせつなきみ」	山田 陽 子	中部学院大学教授
5月6日	「人はパンだけで生きるのではない」	日高 伴 子	日本キリスト教団蘇原教会牧師
5月13日	「隠れた報い」	木下 忠 司	日本キリスト教団坂下教会牧師
5月20日	「人の子は罪をゆるす権限を」	村上 進	中部学院大学総務部長
5月27日	「ときが良くても悪くても」	志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
6月3日		宗 像 亮 二	日本キリスト教団各務原教会牧師
6月10日		志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
6月17日		須藤 茂 明	日本キリスト教団華陽教会牧師
6月24日		笠井 恵 二	岐阜済美学院宗教総主事
7月1日		笠井 恵 二	岐阜済美学院宗教総主事
7月8日		中根 汎 信	日本キリスト改革派那加教会牧師
7月15日		志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事

岐阜済美学院年題聖句（2009年度～2010年度）

「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。」

新約聖書(新共同訳)：マタイによる福音書5章8節



【予告】 宗教講演会

日時：6月28日（月） 第2限（11:00～12:30）

場所：中部学院 関キャンパス 11301 教室

演題：「東西交流史におけるフランシスコ・ザビエル」

講師：桃山学院大学名誉教授 おきうら かずてる 沖浦 和光氏

講演要旨：日本にキリスト教を初めて伝えたことで有名なフランシスコ・ザビエルだが、彼はキリスト教史だけでなく宗教史全体のなかでも重要な位置を占めているといえる。大航海時代の初期にアジアを訪れた最初の布教師であり、インドからインドネシアを経て日本に来たフランシスコ・ザビエルはイスラム教、ヒンドゥー教、仏教等、他の宗教との関係抜きには語れない。

また交易史、航海史の視点から見ても、東西交流史のさきがけとして文化的にきわめて重要な人物である。たった200トンの木造船で遙かニューギニア付近まで航海した記録が残っている。この稀有な人物の軌跡をたどり、その事績について明らかにし、特に彼がキリスト教のどういう点を広めようとして行動したか、何を実際に広めたかについて、宣教の歴史、人権の歴史としての視点から総合的に話したい。

講師略歴：1927年 大阪生まれ、1953年 東京大学英文科卒業。比較文化論、社会思想史専攻。元・桃山学院大学学長。現・桃山学院大学名誉教授。被差別部落の民族文化、産業技術を研究。

<著書・共著>

- ・ 「アジアの聖と賤ー被差別民の歴史と文化」 野間宏との共著 人文書院, 1983
- ・ 「日本民衆文化の原郷 被差別部落の民俗と芸能」 解放出版社, 1984 (のち文春文庫)
- ・ 「瀬戸内の民俗誌 海民史の深層をたずねて」 岩波新書, 1998
- ・ 「幻の漂泊民・サンカ」 文藝春秋, 2001 (文庫)
- ・ 「ハンセン病 排除・差別・隔離の歴史」 徳永進との共編 岩波書店, 2001
- ・ 「境界の輝き 日本文化の深層をゆく」 五木寛之との対談・共著 岩波書店, 2002

チャペル礼拝（チャペルアワー）について

これまでのチャペルアワーの内容が、本学ホームページに掲載されておりますのでぜひご覧下さい。



中部学院大学・中部学院大学短期大学部ホームページ

URL: <http://www.chubu-gu.ac.jp/>

左側のメニューから

「中部学院について」 「キリスト教教育について」 「チャペルアワー」

とお進み下さい。(<http://www.chubu-gu.ac.jp/about/christianity/chapelhour/>)